

卒業生紹介

グローバルな視点をもって社会に貢献できる研究を目指す



Enoki Miki
榎 美紀

日本アイ・ビー・エム(株)
主任研究員

2007年お茶の水女子大学人間文化研究科 数理・情報科学専攻 修了
同年日本アイ・ビー・エム(株) 東京基礎研究所 入社 神奈川県出身

自分のアイデアを形にする

IBMは、世界中に拠点を持つグローバル企業である。IBM東京基礎研究所は1982年にアジアで最初のIBMの基礎研究所として設立された。「IBMの研究所は世界中にあり、面白いことを考えている人は世界中にいて、一緒に仕事できることがとても楽しい」とIBM東京基礎研究所の榎さんは言う。就職活動をした際にIBM東京基礎研究所を訪問し、研究のレベルの高さや、自由な雰囲気、在宅勤務の制度なども充実しており、女性が働きやすい環境に一目惚れした。「自分たちが考えたアイデアを具体的な形にし、そして将来的にはIBMのソリューションとして世に出す」という過程が研究所で感じる一つのやりがいだ。お茶大では、データベースの研究室に在籍し、博士前期課程を修了した。研究所では、学生時代の研究の専門性を活かしつつ、Webアプリケーションサーバのデータベースアクセス高速化のための性能分析・改善を中心に行っていた。

社会に貢献できる研究を目指す

社会人になって5年が過ぎようとした頃に東日本大震災が起こる。IBM東京基礎研究所では、震災で被害を受けた地域に少しでも役に立ちたいとの強い気持ちから「Act for Japan with innovation (AFJI) プロジェクト」が立ち上がった。榎さんが小学校から高校までを過ごした福島県は、未曾有の

危機に直面していた。「自分にできることはないか?」。震災直後には、いろんな情報をソーシャルメディア上からも取得できたが、正しくない情報も多く出回った。毎日入ってくる情報の信頼性が担保できない。そこで所内の研究員に呼びかけて、つぶやかれるメッセージの信頼性を評価する分析プロジェクトをAFJIの活動の一つとして立ち上げた。研究所にいる様々な専門性を持つ人が集まり、部門の垣根を越えて協力した。その後、このプロジェクトで培った技術とマネジメント力を基に、ソーシャルメディア分析のプロジェクトに進化する。プロジェクトでは人間が発信するメッセージをソーシャルセンサーとして、社会に影響力のある人やインパクトのある話題を発見し、企業が何らかの行動を起こす際のヒントを提供する。こういった異なる専門性を持つ人々との交わりを通じて榎さんは、様々な観点の意見から刺激をもらうだけでなく、自分の専門についてはより一層の責任を持って役割を果たすことの重要性を学び、携わる研究がどのように社会に役立っていくだろうかと考え続けることの大切さを強く感じていった。

グローバルに活動する

データアクセスの高速化やJavaのアプリケーションの性能評価の研究から、ソーシャルメディア分析などに携わる中で、榎さんは「研究に広がりが出てきたし、研究者としての視点や研究力が次第についてきた」と言

う。その頃から、今後の研究活動の幅を広げるためにも学位の取得を考えるようになる。2013年4月、本学大学院博士後期課程情報科学領域に社会人学生としてキャンパスに戻る。学位研究の内容は、元々の専門であるデータベースと、ソーシャル分析プロジェクトで研究してきた分析体系を統合して、リアルタイムに高速処理するためのシステムの開発となっている。博士の研究と研究所の業務は、双方とも新しいものを追いかけて質を深めていく作業であり、スピードも要求される。二足のわらじは大変ではないかと率直に聞いてみた。「時間管理は大変だけどやりがいを感じて楽しい。研究所も学位取得を推奨し、大学のゼミや授業へ参加できるように万全の体制での支援をしてくれる。」「短時間にどれだけ集中できるかが勝負」と語る榎さんは今、博士の学位を取得し、世界を相手に活躍することを目指している。

文責：小林 一郎 (基幹研究院自然科学系)

わたしのオフタイム

研究所の焼肉部の仲間と焼肉へ! カルビを愛して焼肉部をつくりました。部門をまたいだ皆との自由な会話も良い気分転換になります。